



台湾・反核団体と意見交換

「脱原発」を掲げ、ともに闘おう！

台湾鐵路工會との定期交流で台湾を訪れたJ R 総連の一行は9月15日、北部の貢寮(こんりゃお)で「反原発」闘争をおこなう市民団体「鹽寮反核自救會」らと会談した。

台湾には3カ所(金山・國聖・馬鞍山)に各2基の原発があり、北部(金山・國聖)の4基はすべてアメリカ・GE社製。現在、ここ貢寮に4箇所目が建設されている。建設中の原発はGE社製130万kWの改良型沸騰水型が2基。炉はGE、タービンはMHI、制御装置は台湾と、各社・国のカスタマイズだ。建設費は6,000億円で計画からすでに26年が経過しているが、たびたび不具合を起こし、まだ完成・稼動していない。建設地は市街地からほど近く、台北から直線距離でわずか40km。貢寮の町からも1.5キロしか離れていない。

貢寮の人口は1万9千人、アンケートでは96%の住民が原発に反対し、反原発のイベントには多くの人が集まるという。原発事故を想定した防災演習が行われた際には、鉄道を使った避難訓練がおこなわれた。家の窓を閉め、エアコンを止めるなど言われた。また台湾電力は、原発推進のために、いろいろな商品を配っているという。

緑色公民行動連盟の崔秘書長は「2012年1月の大統領選挙では、緑色公民行動連盟は民進党の議員を推薦する。過去の選挙では民進党が勝利したことがあるが、台湾には反原発を掲げた政党はない。2025年までに台湾の原発を全廃する方向でいきたい」と選挙に向けた意気込みを見せた。

また、「政府は今すぐに原発が必要だとは言っていない。将来のために必要と言ってきた。原発の発電量割合は11%。しかし電力は24.3%が余っていることや、観光開発の一方で、原発建設を知らせていない。しかし福島原発事故以降、政府は原発を40年で止めると言い始めている」と、福島原発事故で動きを見せられていることも語られた。

台湾では4月30日、反原発を掲げ、日本との同時デモがおこなわれ、1万人が集まっている。会談では原発を廃止するため、ともに闘おうとお互いを激励しあった。



(写真上)

鹽寮反核自救會と緑色公民行動連盟を激励するJ R 総連・鎌田書記長

(写真下)

会談後、建設中の貢寮原発1,2号機の現地視察をおこなった。

手前はタービン建屋で、排気塔の奥が原子炉建屋。

原発前には、1895年5月に台湾に初めて日本軍が上陸した地点を示す「抗日記念碑」が建立され、碧い太平洋の海と白い砂浜が広がっている

